

科目名	臨床検査演習 I			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
							ST1年 後期
【授業の目的・ねらい】 言語聴覚士が行う主な言語機能検査や認知機能検査などの検査バッテリーについて理解できる。							
【実務者経験】 言語聴覚士としてツカザキ病院に勤務、急性期、回復期、外来の失語症、高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリテーションに従事。							
【授業全体の内容の概要】 言語聴覚士が行う主な言語機能検査や認知機能検査、嚥下機能検査などの検査バッテリーについて理解し、実施する。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語聴覚士が行う主な言語機能検査や認知機能検査、嚥下機能検査などの内容を把握し、検査の目的、方法を理解できる。 言語聴覚士が行う主な言語機能検査や認知機能検査、嚥下機能検査などの内容を把握し、検査を実施し、結果の理解ができる。							
回数							準備物(教材)
1	言語聴覚士が行う検査に共通する意義や目的、配慮を理解できる。						
2	簡易な認知機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
3	簡易な認知機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
4	簡易な認知機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
5	簡易な言語機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
6	簡易な言語機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
7	簡易な嚥下機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
8	簡易な嚥下機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
9	複雑な言語機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
10	複雑な言語機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
11	複雑な言語機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
12	複雑な認知機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
13	複雑な認知機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
14	複雑な認知機能検査についての概要と目的、方法、結果を理解できる						検査道具・記録用紙
15	総まとめができる						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 標準失語症検査マニュアル 適時検査用具， マニュアル， 検査用紙を使用します。							
【準備学習・時間外学習】 検査についてマニュアルを熟読し、十分に手技を練習する必要があります。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 小テストを50点、定期試験を50点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							